

令和 4 年 6 月 9 日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K03237

研究課題名(和文)近代日本の産業地域形成と生活基盤の再編に関する歴史地理学的研究

研究課題名(英文)Historical Geography on the Formation of Industrial Areas and the Reorganization of Life Infrastructure in Modern Japan

研究代表者

湯澤 規子(Yuzawa, Noriko)

法政大学・人間環境学部・教授

研究者番号：20409494

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近代日本の産業地域形成と、その際に生じる「生活基盤」の整備と再編のプロセスを、具体的事例にもとづいて明らかにすることを目的とした。本研究における生活基盤とは、衣食住だけではなく、衛生、教育、福祉などの社会的事業も含むものとした。

研究対象地域は、工業化による変化が大きい愛知県尾西織物業地域、東京と大阪の都市域などに設定した。主なテーマは2つである。第1に「食」をテーマとし、工場や都市の食空間を解明した。第2に「衛生」をテーマとし、排泄、肥料、物質循環などについて議論し、生活基盤の整備と再編が、地域や産業の構造的転換の重要な要素であったことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、産業革命期という大きな変化の中で、製造業の発展を支えた「労働者」に着目し、生身の人間がいかに生きたか、またそのための生存基盤の構築が、どのように新しい社会を形成していったかを明らかにしたものである。

既存の歴史地理学や経済史研究における近代日本に関する議論は、鉄道、道路、建物などのインフラストラクチャーの整備や企業勃興を対象としたものが中心であった。それに対し、本研究では人間と社会との関係に議論を拡張し、近代日本についての新たな知見を提示した点に学術的意義がある。またその知見は、絶え間ない変化に直面している現代の私たちの暮らしや生き方にも多くの示唆を与える社会的意義を有している。

研究成果の概要(英文)： The purpose of this study was to clarify the formation of industrial regions in modern Japan and the process of development and restructuring of "living infrastructure". In this study, "livelihood infrastructure" includes not only food, clothing, and housing, but also social services such as sanitation, education, and welfare.

The study area was set in the Bisai textile industry region of Aichi Prefecture and the urban areas of Tokyo and Osaka, as areas that had undergone significant changes due to industrialization. There were two main research themes. The first theme was "food," and the study elucidated the food space in factories and urban areas. The second theme was "sanitation," and included discussions on excretion, fertilizers, and material circulation. It became clear that the development and reorganization of the living infrastructure was an important element in the structural transformation of regions and industries.

研究分野：人文地理学

キーワード：近代日本 生活基盤 循環経済 食 衛生 教育

1. 研究開始当初の背景

(1) 在来的経済発展論の成果と課題

申請者がこれまでの歴史地理学研究に援用してきた「在来的経済発展論」は、在来産業と近代産業の相互補完関係という新たな歴史像を提唱した点で重要である(谷本1998)。しかし、その後、新たな課題も見出された。第1の課題は、分析の対象が主に第二次産業(製造業)が中心であったために見落とされてきた、第一次、第三次産業を含めた在来産業と近代産業の関係史の構築である(阿部2016、井奥ほか2016)。第2の課題は、「経済」の概念をより幅広くとらえ直す必要性である。たとえば、近年、満菌(2014)やペネロピ・フランクスら(2016)は「消費」からみた近代史を再構築し、井奥ほか(2016)が企業経営だけでなく、「社会事業」にも積極的に関与する名望家を、「地域事業家」という新たな概念で定義するなど、近代日本を分析する視点には新たな方向性が提起されるようになった。

(2) 「広義」の経済への着目

新たな方向性とはつまり、経済活動に含まれる事象をより幅広くとらえようとする見方である。本研究ではそれを「広義」の経済と定義する(湯澤2015a)。広義の経済とすることで、企業の生産活動だけでなく、日々をいかに生きるか、という人びとの暮らしの諸相を含んだ分析が可能となる(湯澤2016b)。具体的には消費(衣食住)、教育、労働、医療・衛生、福祉を分析の射程に入れ、近代日本の社会や経済の変化を明らかにしたい。

(3) 近代日本の経済発展と「地域」

近代日本の諸相について、まず歴史地理学会で「産業革命期前後の歴史地理」(1964年)、「明治後期の歴史地理」(1966年)が議論され、1967年に経済地理学会で「近代日本の地域形成」と題したシンポジウムが開催された。それから約30年を経て、近代日本の地域形成グループが発足した。その一連の研究(山根ほか2007)は、「近代国家の萌芽からその基軸である社会的システム統合の『完成』に至る近代日本の事実と意義」を地理学独自の視角を示しつつ、他の人文社会科学と共同しながら多面的に検証する重要性を強調し、隣接分野との積極的な連携がいつそう求められるようになった。これに応じて申請者は地理学を基軸としつつ、社会経済史学や経営史学との連携を図り、共同研究を通して地理学の視角や独自性を相対化する研究を進めてきた。近年では、「国民国家」というスケールで議論することが多かった社会経済史学でも、「地域」に着目した新知見が提示されるようになった(武田2003)。つまり近代日本の経済発展を「地域」の視点から空間的、かつ構造的に明らかにする意義は今後ますます高まると考えられる。

2. 研究の目的

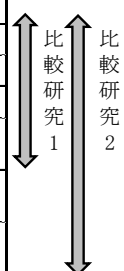
本研究の目的は、近代日本において産業地域の形成に伴って経済や社会にどのような変化がみられたのかを、人びとの生活基盤に着目して解明することである。申請者はこれまで、山梨県甲州市勝沼のぶどうとワインの産業史や、秋田県北秋田市の林業史、愛知県一宮市の織物業史の研究を通して経済発展の論理と構造を「地域」の視点から明らかにしてきた。

その過程で、近代日本の経済発展の過程では、企業の勃興や分業化の進展と合わせて、消費、教育、労働、医療、福祉など「人びとの生活基盤」が大きく再編され、それがさらなる産業化へと繋がったことが示唆された。そこで本研究では、「産業地域の形成」と「生活基盤の再編」の相互関係を解明し、新たな近代地域史を構築する。

3. 研究の方法

研究対象と研究方法を下記のように設定した。

事例	フィールド	研究課題	方法
1	紡織業地域1(愛知県尾西)	(1) 織物業の発展と暮らしの変化	地域社会事業史料の分析
		(2) 金銭出入帳・家計簿からみた近代	家計簿史料の発掘と分析
2	紡織業地域2(桐生・富岡・ボストンなど)	(1) 桐生・富岡などの工場と女工の生活	群馬県立図書館所蔵の
		(2) アメリカ織物業地域の女工の生活	ハーバード大学図書館所蔵資料(Lowell Offering)などの分析
3	果樹栽培地域(山梨県甲州市)	(1) ぶどう栽培とワイン醸造業の近代史	「宮光園」史料群、旧役場文書の分析および聞き取り調査
		(2) 近代観光事業の展開とその背景	「宮光園」史料群、旧役場文書の分析および聞き取り調査



対応する問題意識と具体的な課題は図1の通りである。

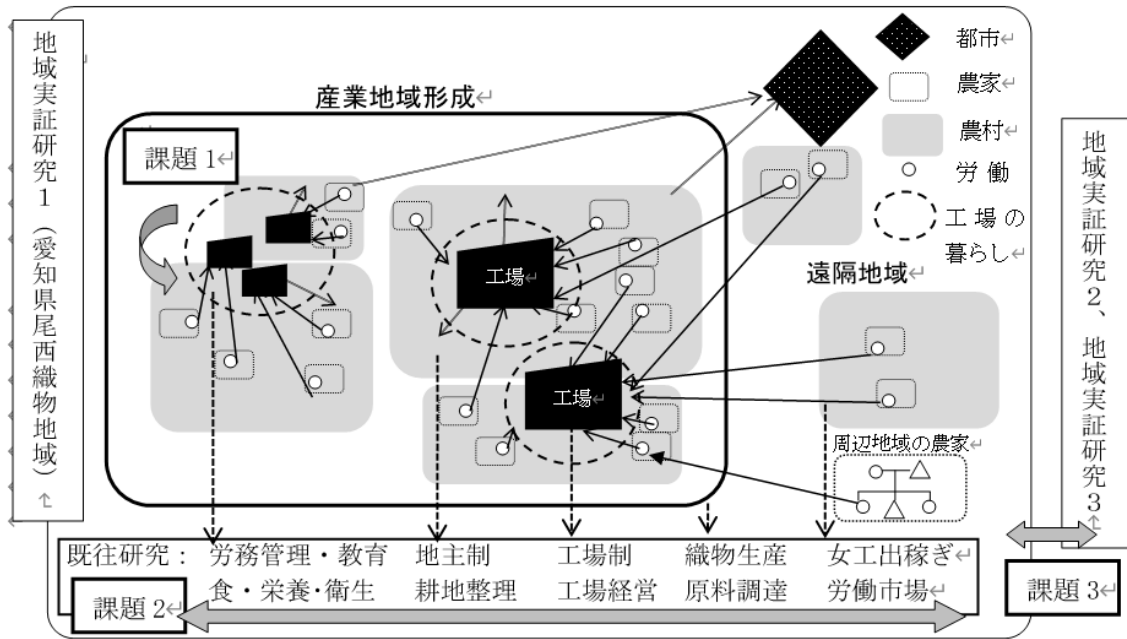


図1 問題意識と研究の課題

まず、課題1では地域実証研究にもとづいて、産業地域の形成を複数の産業の相互関係（工業と農業と商業）を含めて明らかにする。課題2では、既往研究で個別に解明されてきた項目を、「地域」という体系の中で、関連させながら理解することを目指す。具体的には1）消費（衣食住）、2）教育、3）労働、4）医療・福祉に着目し、それらが産業地域形成に果たした役割を解明したい。実証研究のフィールドは、織物業地域（愛知県一宮市、群馬県桐生市、米国マサチューセッツ州など）、果樹栽培・醸造業地域（山梨県甲州市）などを想定している。以上の実証研究を比較研究し、近代日本の産業地域形成と暮らしの変化として総括することを課題3とする。

4. 研究成果

課題1については主に愛知県一宮市の尾西織物業地域において、織物工場経営史料や炊事組合史料の発掘、収集、解読、分析を通して、主に近代日本の「食」と労働者というテーマで成果を得られた。課題2については、生活基盤に含まれる保育や衛生、福祉などの事象を検討することができ、愛知県、東京都、大阪府の3地域の比較研究を進めることができた。また、米国マサチューセッツ州における19～20世紀の産業地域形成のプロセスと労働者の生活基盤についても、具体的な史料にもとづいた研究成果が得られた。以上2つの課題を総括した議論を3冊の書籍として出版することができ、課題3についても成果が得られた。下記に詳細を報告する。

(1)労働者の胃袋からみた地域史

近代日本において工場が増加し、東京、愛知、大阪に集積することによって生じた人口移動と人口集中は、どのような生活基盤の変化をもたらしたのだろうか（図2）。

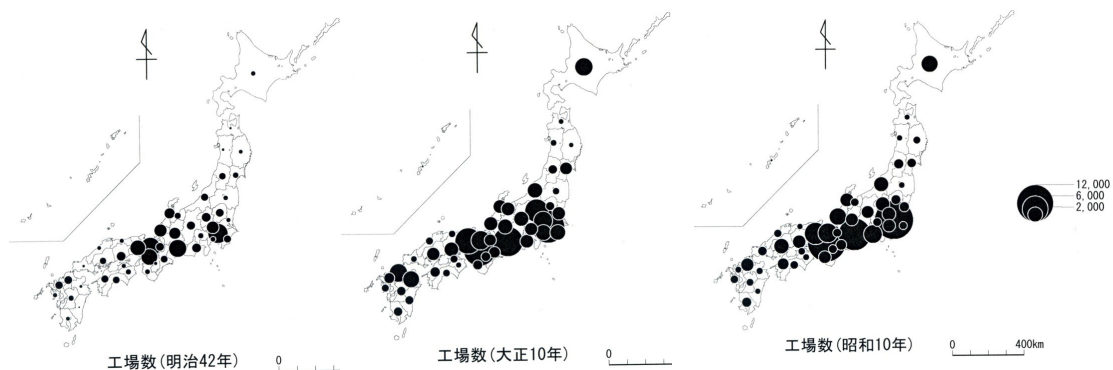


図2 全国における工場分布の推移

出典)『工場統計表』各年により作成。

工場経営と労働者の生活世界の関連性を明らかにすることを目的として、愛知県一宮市の尾西織物業地域における織物工場経営史料の分析を進めた。

その成果はまず、第69回日本人口学会大会(2017年6月10日:東北大学)にて「人口と栄養の近代史—人口食料問題の都市農村比較」として報告した。また、近代日本の経済発展と女工の生活を関連付けた論考を、湯澤規子2017「教育と労働」(中西聡編『経済社会の歴史—生活からの経済史入門』名古屋大学出版会)216-235頁としてまとめ、刊行した。加えて、近代化と人びとの生活、価値観の変化の関係を論じた論考として、湯澤規子2018「ジェンダーから再考する地域と人間」(矢ヶ崎典隆・森島斉・横山智編『サステナビリティ—地球と人類の課題』朝倉書店)104-113頁を刊行した。

この課題で明らかになったのは、人口増加と都市拡大が生じた近代において、都市や工場に集まった大勢の労働者の胃袋を満たすための集団食(図3)、炊事システム(図4)、商品作物の生産促進などが同時に起こり、社会の構造全体が大きく変化したということであった。



図3 東洋モスリンの食堂(1922年頃)

出典:『都の生活記念帖』東洋モスリン株式会社

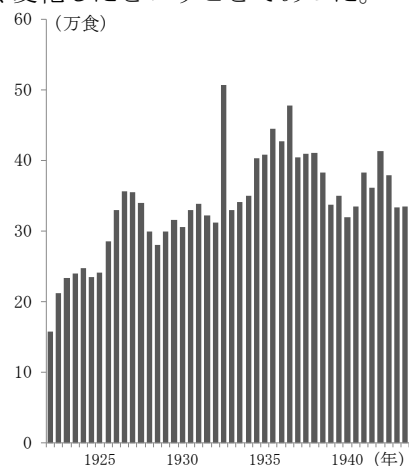


図4 起共同炊事場による配食数の推移

資料:『起共同炊事組合書類綴』

(2)労働者と生活基盤に関する都市比較

2018年には、生活基盤の中でも特に「食」に着目した研究成果として、単著『胃袋の近代—食と人びとの日常史』(名古屋大学出版会)として2018年6月に出版した。加えて、食という生活基盤の歴史的变化を論じた2019年3月に単著『7袋のポテトチップス—食べるを語る、胃袋の戦後史』(晶文社)を出版した。

教育・労働・福祉に関わる「生活基盤」については、上記の「地域社会事業」のネットワークの発見が大きな成果であった。その他にも、「栄養」をキーワードとして、愛知県尾西の織物工場、埼玉県栄養改善事業の資料をもとに比較分析を進めた。その成果は、「働く心身はだれのものか?—近代日本における栄養行政と労働者の生活世界」(『新しい歴史学のために』2021)として発表した。

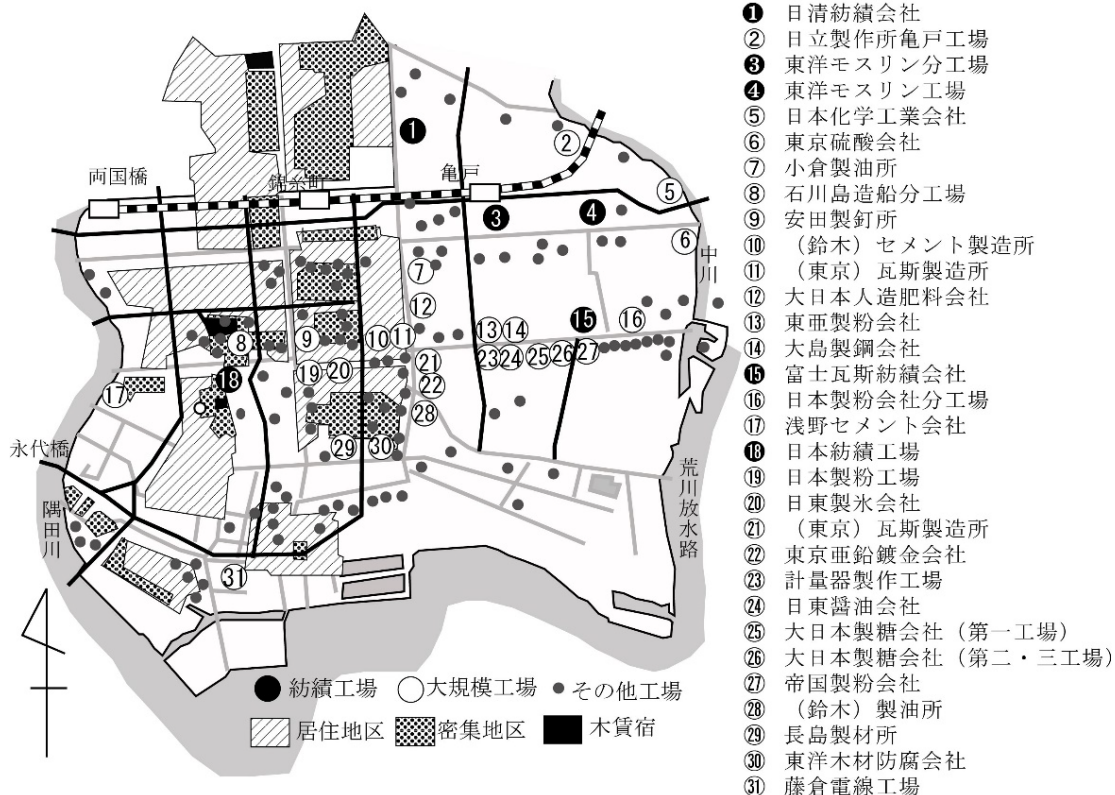
「食」と「衛生」を関連させたテーマとして、2018年7月29日~8月3日にアメリカ合衆国マサチューセッツ工科大学で開催されたWorld Economic History Conference BOSTONにおいて、Structural changes in fertilizer circulation in modern Japan: Analysis based on the change in relationship between the use of night soil and the disposal of human waste. というタイトルで報告した。

当初の計画では2019年度にアメリカ合衆国マサチューセッツ州ボストンの近郊Lowellでの現地調査およびハーバード大学図書館での資料閲覧を実施する予定であったが、2018年度にその準備が整ったために、予定より1年早く実施することができた。現地では博物館、図書館での資料収集のほか、織物工場地域の景観を観察し、寄宿舎の様子などを撮影することができた。この調査によって、海外の事例を含めた生活基盤に関する都市比較研究が可能となった。

マサチューセッツ州ボストンにおける労働者の「食」と社会に関する研究成果は、「近代都市の惣菜史—『火』を買う・借りる・共有する」(『現代思想』2022)として発表した。

2018年に実施したアメリカ合衆国での資料調査、フィールドワークから得られたのは、「食」に限らず、教育・労働・福祉に関わる「生活基盤」全般に関する社会変化に関する知見であった。これらは歴史地理学の中に、新たに「日常史」という分野を提示する成果でもあるため、日米比較史研究として発表する準備を進めている。

まずは現時点で考察した日米の都市比較研究を「近代産業地域社会における「生活」と「労働」の再編過程—Women's Educational and Industrial Union, Boston 史料による再編主体の日米比較を視野に」(『歴史と経済』2020)として発表した。その結果、近代都市における「食空間」の形成には、ジェンダーによる差異が表出することが明らかになった(図5)。つまり、工場内で企業の関与のもとで生活基盤を整備・再編する女性労働者に対して、男性労働者は企業の関与というよりも、民間、行政、社会事業家、世帯など、複数の主体によって整備・再編された生活世界を生きていることが示唆された。



第5図 本所・深川区の工場分布と労働者の居住状況（大正末期頃）

出典：工場分布は江東区編『江東区史 中巻』東京都江東区，1997年，435頁，居住状況は石塚裕道『東京の社会経済史—資本主義と都市問題』紀伊国屋書店，1977年，253頁に加筆（原資料は東京市社会局『自由労働者に関する調査』東京市社会局，1923年）。

(3) 産業革命期における生活基盤の構造的変化

愛知県尾西織物業地域（現：一宮市）を事例とした産業史研究を継続する中で、工場労働者の生活基盤としての便所や衛生環境の問題、つまり、「糞尿」の利用と処理についての分析と考察を進めた。その成果を社会還元することを企図して、単著『ウンコはどこから来て、どこへ行くのか』（ちくま新書、2020）として刊行した。

これによって、これまで「生産」活動に偏重していた経済史研究に対して、消費・衛生・医療の視点から、新たな知見を示すことができた。近代日本における「循環経済」のひとつのあり方としても注目すべき現象が抽出された。

研究期間の後半では、これまで愛知県尾西織物業地域（現一宮市）を事例とした産業史研究を通して具体的に明らかにしてきた工場労働者の生活基盤としての便所や衛生環境の問題に加えて、近代日本を俯瞰する都市の衛生史、都市と農村の関係史、衛生をめぐる精神史に関する考察を深めた。さらに、歴史的研究を現代的な課題とつなぐ議論を展開した。その成果は、「『糞壤』と『里山』に循環世界の未来を学ぶ—新・里山システムの試み」（『地理』2021）、「下肥利用と尿尿処理の歴史から考える『水環境』の未来」（『月刊浄化槽』2022）として発表した。

以上の研究によって、既往研究が蓄積してきた「生産」活動に関する研究に加えて、「生活基盤」に着目することが重要であるという新たな知見を示すことができた。また、それは国際比較研究にも発展することを示し、さらには、極めて現代的な課題とも接続する研究ともなり得ることを明らかにできたことは、本研究の大きな成果であった。

【参考文献】

- ・阿部希望(2016)『伝統野菜をつくった人々』農山漁村文化協会。
- ・井奥成彦・中西聡編著(2016)『醤油醸造業と地域の工業化—高梨兵左衛門家の研究』慶応大学出版会。
- ・武田晴人編(2003)『地域の社会経済史—産業化と地域社会のダイナミズム』有斐閣。
- ・ペネロピ・フランクス、ジャネット・ハンター編、中村尚史ほか監訳『歴史のなかの消費者』法政大学出版局。
- ・満菌勇(2014)『日本型大衆消費社会への胎動：戦前期日本の通信販売と月賦販売』東京大学出版会。
- ・山根拓・中西僚太郎編(2007)『近代日本の地域形成—歴史地理学からのアプローチ』海青社。
- ・湯澤規子(2015a)「塚原伸治著『老舗の伝統と近代』家業経営のエスノグラフィー」『史鏡』第70号、127-134頁。
- ・湯澤規子(2015b)「共同炊事と集団食からみた尾西織物業地域の近代」『歴史地理学』第57巻第4号、1-22頁。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 湯澤規子	4. 巻 122
2. 論文標題 近代日本の胃袋を支える台所－在来市場と近代市場	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 vesta	6. 最初と最後の頁 46-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 湯澤規子	4. 巻 62
2. 論文標題 近代産業地域社会における「生活」と「労働」の再編過程 Women's Educational and Industrial Union, Boston 史料による再編主体の日米比較を視野に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史と経済	6. 最初と最後の頁 4-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 湯澤規子	4. 巻 20(1)
2. 論文標題 日本における製菓業の歴史的展開と地域の特徴：地域の産業と経済という視点から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人間環境論集	6. 最初と最後の頁 19-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 湯澤規子	4. 巻 247
2. 論文標題 近代産業地域社会における「生活」と「労働」の再編過程 Women's Educational and Industrial Union, Boston史料による再編主体の日米比較を視野に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史と経済	6. 最初と最後の頁 4-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 湯澤規子
2. 発表標題 「食」がひらく共在世界の過去・現在・未来 だれが胃袋の心配をするのか？
3. 学会等名 2020年度味の素食の文化センター、人間文化研究機構共催シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 湯澤規子
2. 発表標題 近代産業地域社会における「生活」と「労働」の再編過程 Women's Educational and Industrial Union, Boston史料による再編主体の 日米比較を視野に
3. 学会等名 政治経済学・経済史学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Noriko Yuzawa
2. 発表標題 Structural changes in fertilizer circulation in modern Japan: Analysis based on the change in relationship between the use of night soil and the disposal of human waste
3. 学会等名 World Economic History Conference BOSTON（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 湯澤規子
2. 発表標題 人口と栄養の近現代史 人口食料問題の都市農村比較
3. 学会等名 第69回日本人口学会大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 湯澤規子 (分担執筆)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 378
3. 書名 フィールドから考える地域環境[第2版]	

1. 著者名 湯澤規子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 247
3. 書名 ウンコはどこから来て、どこへ行くのか	

1. 著者名 湯澤規子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 325
3. 書名 胃袋の近代 食と人びとの日常史	

1. 著者名 湯澤規子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晶文社	5. 総ページ数 341
3. 書名 7袋のポテトチップス - 食べるを語る、胃袋の戦後史	

1. 著者名 湯澤規子（中西聡編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 339
3. 書名 『経済社会の歴史 生活からの経済史入門』	

1. 著者名 湯澤規子（矢ヶ崎典隆・森島斉・横山智編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 145
3. 書名 『サステイナビリティ 地球と人類の課題』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------